

令和3年度 全国学力・学習状況調査 調査結果概要と改善の取組

5月に実施した6年生対象の全国学力・学習状況調査の調査結果概要及び今後の改善の取組について御報告します。

正答率概要

	国語	算数
本校	55.0%	60.0%
東京都平均	68.0%	74.0%
全国平均	64.7%	70.2%

正答数四分位概要

四分位	国語（全14問）			算数（全16問）		
	本校	東京都平均	全国平均	本校	東京都平均	全国平均
第3四分位	10.0問	12.0問	11.0問	13.0問	15.0問	14.0問
第2四分位	8.0問	10.0問	9.0問	10.0問	13.0問	12.0問
第1四分位	5.0問	7.0問	7.0問	6.0問	10.0問	9.0問

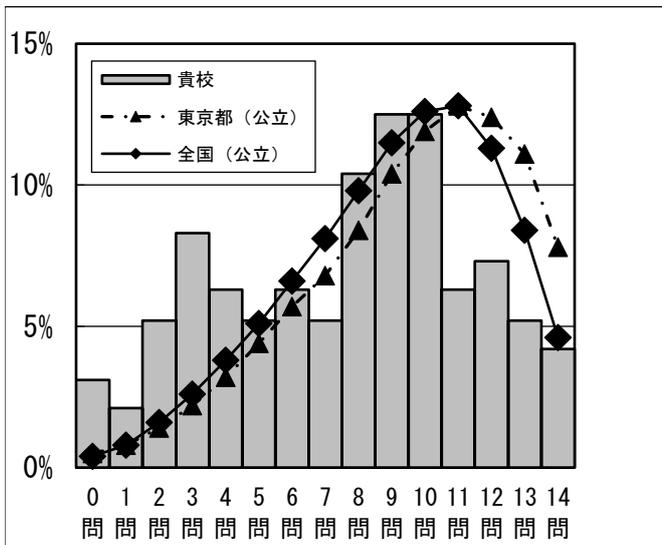
国語、算数共に東京都及び全国の平均を下回る結果となった。全国平均と比べ、国語は－9.7ポイント（東京都平均とは更に－3.3ポイント）、算数は－10.2ポイント（東京都平均とは更に－3.8ポイント）であった。

また、四分位を見ると、国語、算数共に東京都及び全国の平均正答数を下回る結果となった。本校の平均正答数は第2四分位の値である国語で8問、算数で10問であった。

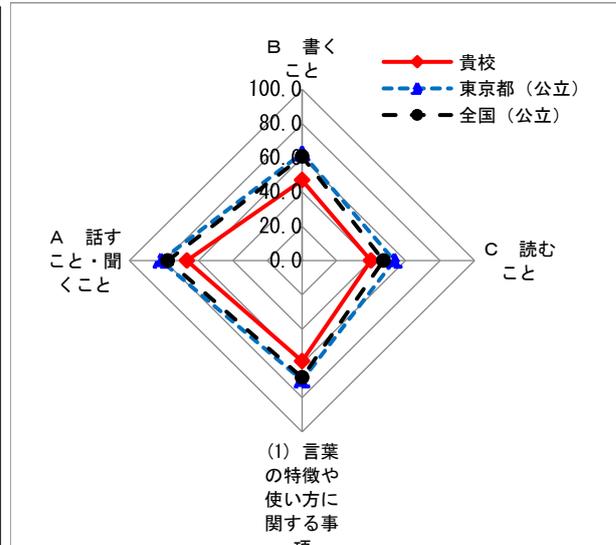
そこで、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、各教科の詳細分析を行い、授業改善の取組に努めていく。

[国語]

正答数分布(横軸:正答数 縦軸:割合)



学習指導要領の区分等の平均正答率の状況



分類	区分	平均正答率 (%)			差 (ポイント)		
		本校	東京都	全国	本校-東京都	本校-全国	
学習指導要領の内容	知識及び技能	58.7	69.9	68.3	-11.2	-9.6	
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	66.7	81.8	77.8	-15.1	-11.1
		書くこと	46.9	62.7	60.7	-15.8	-13.8
		読むこと	39.9	53.5	47.2	-13.6	-7.3
問題形式	選択式	63.0	75.6	71.7	-12.6	-8.7	
	短答式	60.1	71.3	70.6	-11.2	-10.5	
	記述式	27.1	44.2	40.2	-17.1	-13.1	

分析

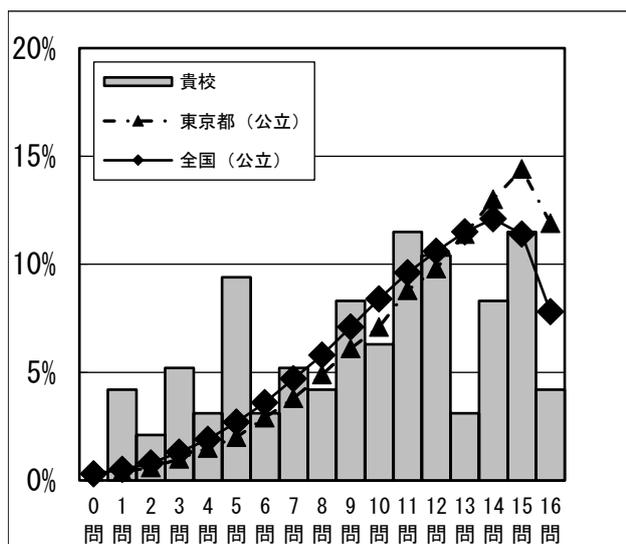
「学習指導要領の内容」における「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の4区分全体にわたって、東京都の平均を下回る結果となった。特に、東京都及び全国の平均との差が大きかった区分は「書くこと」である。自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えて書くこと、また、理由を明らかにしながら、書き表し方を工夫して書くことを苦手としていることが分かった。また、「問題形式」の「記述式」の正答率及び差にも顕著に表れ、書くことに抵抗感をもつ児童が少なくない。どの区分も連動し、関係性が高い。そのため、主語述語の関係や思考に関わる語句の使い方、単語の知識等、語彙力を高めるとともに、授業を中心に日頃から書く経験を積ませる必要があると考える。

授業改善

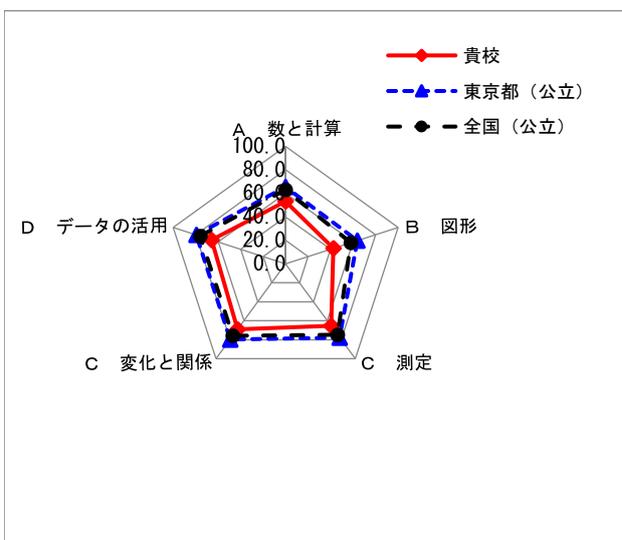
- 国語辞書の活用（3年生以上）を積極的に取り入れて、言葉の知識を増やしていく。
- 朝読書の活用、読み聞かせの実施等、読書環境の充実を図り、活字に慣れ親しませていく。
- 11月を作文月間と位置付け、朝学習の時間を活用し、テーマ（選択型）に合った百マス作文を書く取組を全校で実施し、書くことへの抵抗感を取り除いていく。
- 国語の授業を中心に、目的や意図に応じて自分の考えや意見を文章にまとめる活動をどの教科にも取り入れ、文章力を高めていく。

[算数]

正答数分布(横軸:正答数 縦軸:割合)



学習指導要領の区分等の平均正答率の状況



分類	区分	平均正答率 (%)			差 (ポイント)	
		本校	東京都	全国	本校-東京都	本校-全国
学習指導要領の領域	数と計算	53.1	65.4	63.1	-12.3	-10
	図形	42.4	63.7	57.9	-21.3	-15.5
	測定	65.3	77.7	74.8	-12.4	-9.5
	変化と関係	69.1	79.8	75.9	-10.7	-6.8
	データの活用	65.8	79.5	76.0	-13.7	-10.2
問題形式	選択式	68.4	80.1	76.0	-11.7	-7.6
	短答式	64.6	79.1	75.8	-14.5	-11.2
	記述式	39.6	56.2	53.0	-16.6	-13.4

分析

「学習指導要領の領域」における「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」の5区分全体にわたって、東京都の平均を下回る結果となった。特に、東京都及び全国の平均との差が大きかった区分は「図形」である。複数の図形（三角形や四角形）を組み合わせた図形の面積を底辺や高さの関係等、図形を構成する要素を的確に捉え、図形の面積の求め方を考えることを苦手とする児童が少なくない。また、「問題形式」の「記述式」の正答率及び差にも顕著に表れ、自分の考えを筋道立てて説明することが苦手とする児童が多い。そのため、図形の性質や図形を構成する要素について理解し、それらの性質を基に、考察することができるようにする必要がある。

授業改善

- 学習内容と身近な事象とを関係付け、学習への意欲につなげたり、図や数直線等の具体物を提示し、答えの求め方に必要な情報を見付け出す活動を取り入れ、筋道立てて考えていくことのよさを実感させたりする。
- 東京ベータネットを活用し、朝学習の時間を中心に、計算問題に繰り返し取り組む機会を設定し、計算力の向上を図る。
- 立式や答えを求める過程など、式や図、言葉を用いてまとめる自力解決の場面やそれぞれの考えに触れる交流活動を設定し、コースの実態に応じながら児童一人一人の論理的思考力を高めていく。